

幼児の集団あそびの指導 (1)



久 富 御 治 代

集団あそびとは、郷土あそび、ゲームなどを含む仲よし遊びで、現在、幼稚園、保育園の保育内容として、広く計画、指導されている遊びである。

その指導の目標とされているものは、

- 一、集団で遊ぶ楽しさを味わわせ、明朗な性格を養う。
- 二、楽しくみんなで遊ぶための役割(ルール)を知り、それを守る態度を身につけ、社会性や協同性を養う。
- 三、遊びの種類により、身体各部の機能の発達を、遊びの内に促進させる。

四、集団の中で自分を生かし、また他人を生かす方法を会得させ、民主的な性格形成の基礎を養う。
が、その主なものである。

このような目標を達成するためには、子ども達が興味をもち、生

き生きとその遊びにとりくむことが必要である。それには、子ども達の身心の発達に適応した遊びを選ぶことが、指導の第一条件となってくる。どんなにおもしろい遊びを、上手に指導しても、それが前述の条件に合わない場合は、教育的効果をあげることはできない。

このような点に指導の問題点を求め、適切な指導の指針をみいだすための基礎資料として、先に「集団あそびについての一考察」を発表したが、その結果、年長児になるほど好まれるものは、競争あそび、知的あそびであり、年少児になるほど簡単な社交あそび、手あそびが好まれるという全体的傾向を、明らかにすることができた。

さらにその資料にもとづき、知的あそび(記憶あそび)として柿屋さん、感覚的あそび(聴覚あそび)として番犬あそび、社交的あ

そび（円型）として子どもの王様、競技的あそび（鬼ごっこ）としてハンカチ落とし、競争あそび（場所とり）として椅子とりを代表的な遊びに選び、年令別に行なった実際を観察記録し、子どもの遊びに対するルールの理解度や、興味の度合いを深めてみた。（この調査は、保育短大学生、浅野、小檜山、榎村、鈴木、の諸姉の協力を得て実施した。）

下と次頁の表は、その記録を簡単にまとめたものである。

また、この遊びを通し、個々の子どもの遊びへの参加態度をみると、次のようにわけられる。

遊びに興味をしめす子ども

a、よいリーダーシップのある

	5才児	4才児	3才児
ルールの理解度	<ul style="list-style-type: none"> 理解している ハンカチを落して走る時、一方向まわりばかりでなく逆方向にまわったり停止したり工夫する ハンカチを落す時、同じ子どもにも落さず、工夫する つかまえられると素直に円内に入る 	<ul style="list-style-type: none"> 理解している ハンカチを落して走る時、比較的一方向まわりに走る ハンカチを落す時、同じ子どもにも落すことが度々ある 円内に入るのを時々こぼむ 	<ul style="list-style-type: none"> だいたい理解している ほとんどの子が一方向まわりに走る 同 左 円内に入るのをこぼむ子が多い
動作の敏感度	<ul style="list-style-type: none"> 活発に動作をする 追いかける回数が多し ハンカチを落されて、ぼんやりしている子どもはほとんどない 男子は女子にくらべて非常に活発である 	<ul style="list-style-type: none"> 同 左 同 左 気のつかない子が少しあるが急いで動作をしようとする 男女の動作に差がほとんどない 	<ul style="list-style-type: none"> 四才児に比し活発さは少ない 四才児に比して少ない ぼんやり気のつかない子がある 男女の動作に差がない
興味	<ul style="list-style-type: none"> 非常に興味をもち、盛んな声援がとぶ 追いかけることを非常によぶ 継続時間は長い 追かけられたり、追ったりする時に真剣さがみられる 	<ul style="list-style-type: none"> 興味をもち、盛んに声援する 同 左 同 左 同 左 ほとんどの子が真剣である 	<ul style="list-style-type: none"> あまり興味をもたない子もあり、声援も少ない 同 左 余り長くない あまり真剣さはみられない

ハンカチ落とし

	5才児	4才児	3才児
ルールの理解度	<ul style="list-style-type: none"> 理解している 一つの椅子を二人で取った時、子ども達の指示で、ジャンケンをし、その勝負により椅子の所有をきめる 椅子がとれなくても、それに固執せず、見物をたのしむ 	<ul style="list-style-type: none"> 理解している 先生の指示によりジャンケンの勝負により所有をきめる 椅子がとれないと、それを気にする子が少数ある 	<ul style="list-style-type: none"> だいたい理解しているがわからぬ子もある 同 左 どの椅子にでも早く坐ることが理解されず、自分の椅子に固執してむずかる子がある
音に対する動作の敏感度	<ul style="list-style-type: none"> ピアノに合わせて歩ける（強弱、速度、等もききわける） ピアノがとまると同時に椅子にすわる動作を敏速にする 	<ul style="list-style-type: none"> ピアノの変化に大体あわせられる 同 左 5才児より敏速さを欠く 	<ul style="list-style-type: none"> ピアノの変化にあわせては歩けない ピアノが止っても、ぼんやりしている子が多い
興味	<ul style="list-style-type: none"> 競争意識が非常に高い みている子から声援が盛んで非常に騒々しい 椅子をとろうとして一生懸命である 継続時間は長く、強い興味を示す 	<ul style="list-style-type: none"> 競争意識がみられる 同 左 同 左 継続時間は長い 	<ul style="list-style-type: none"> 一部のリーダー格の子は競争意識を示すが他の多くの子は、はっきりした競争心はない あまり声援をしない 椅子がとれなくても平気な子が多い 継続時間はあまり長くない

椅子とり

△子どもの王様▽

	5才児	4才児	3才児
ルールの理解度	<ul style="list-style-type: none"> よく理解している 歌に合わせた動作を正しくする 王様は同じ子がならないように工夫する 	<ul style="list-style-type: none"> 同 左 歌と関係ない動作が時々あらわれる 同 左 自分の好きな子を選ぶことが多い 	<ul style="list-style-type: none"> 理解している 同 左 きまった子が王様になりやすいが先生の指示で友達を選ぶことができる
歌に合わせての動作の仕方	<ul style="list-style-type: none"> よくできる 	<ul style="list-style-type: none"> おじぎ、椅子にすわるところが歌と合わない子が時々ある 	<ul style="list-style-type: none"> 歌に合わせての動きはあまり上手に出来ない。おじぎをしてかわるところだけする子もある
興味	<ul style="list-style-type: none"> することをたのしむが、何度もすると馴れてあきてくる 王様になることに強い興味を示す 継続時間はあまり長くない 	<ul style="list-style-type: none"> することをたのしむ 同 左 同 左 	<ul style="list-style-type: none"> たのしんで何度もやりたがる 同 左 継続時間は比較的長い

△番犬あそび▽

	5才児	4才児	3才児
ルールの理解度	<ul style="list-style-type: none"> 理解している 静かにして鈴の隠してある場所を教えないことは守られる 	<ul style="list-style-type: none"> 大体理解している 大体まもられる中に教えてしまう子がある 	<ul style="list-style-type: none"> 大体理解している 自分から出してみせてしまう子もある
注意力, 集中力	<ul style="list-style-type: none"> 鈴を静かに持ちかえろうとしていろいろに工夫する 犬になる子は長い間静止を保つことができる みている子は鈴を持ちかえる子の動作に集中する 	<ul style="list-style-type: none"> 鈴を無雑作に持ちかえる子が多い だいたいできる 同 左 	<ul style="list-style-type: none"> 鈴を無雑作に持ちかえる子が四才児より更に多い できないで、すぐ目をあけてしまう 集中する度合いは少ない
興味	<ul style="list-style-type: none"> はじめから、興味をもってする 隠している子ども達は、さがす子どもをいろいろ恐わせて興味をもちあける 継続時間は、長い 	<ul style="list-style-type: none"> 同 左 同 左 しかし、すぐ教えてしまう あまり長くない 	<ul style="list-style-type: none"> 同 左 隠している子ども達は、その場所を動作に表わしてしまう 短時間である

△柿屋さん▽

	5才児	4才児	3才児
ルールの理解度	<ul style="list-style-type: none"> 理解している 歌をうたってはっきりした動作をする 隠してある柿を手の強弱によってほとんどみつかることができる ほとんどは上手に柿をかくすが中に勝手に出す子がいる 柿のくばられるのにまかせ 	<ul style="list-style-type: none"> 同 左 だいたいできる 強弱の識別のわからない子もある 同 左 柿を頂戴と手を出す子が多い 	<ul style="list-style-type: none"> 大体理解している 歌をうたいながらの動作はあまりできない 強弱の識別が四才児より更に困難である かくしている柿を勝手に出す子が多い 柿のくばられるのにまかせ
記憶力	<ul style="list-style-type: none"> 平均して5個位までは記憶することができる 集める時間が比較的短い 	<ul style="list-style-type: none"> 平均して4個位までは記憶することができる 集める時間は数が多くなるほど手間どる 	<ul style="list-style-type: none"> 平均して3個位までは記憶することができる 集めるのにかなり手間どるしてもわからない子もある
興味	<ul style="list-style-type: none"> 柿屋になりたがる かくされた柿の場所を「あっち」「こっち」と言ったりして興味を盛り上げる 継続時間は比較的長い 	<ul style="list-style-type: none"> 同 左 柿をすぐ出してしまう子が多い 同 左 	<ul style="list-style-type: none"> 一部にはなりたがらない子もいる 同 左 四才児に比して短い

- ・調査日 昭和35年1月 於名古屋市立保育短大附属保育園
- ・幼児数 5才児 35名 4才児 28名 3才児 17名
- ・時間 大体20分
- ・遊びをはじめる前にルールの再確認をさせる

る子

積極的に遊びの中心となり、他の友達をリードして遊びを進めてゆく。このような子は、日常の保育の場でもよい中心的存在であり、比較的すべての面にすぐれ、人望のある子にみられる。

b、追従的な子ども

リーダー格の子のあとについて、よるこんでその遊びに参加する。多くの子どもがこの型に属し、指導によっては次第にaの型を身につけてゆくことのできる子である。

c、独善的な子ども

積極的に遊びに参加するが、遊びを自分で独占したがかり、ルールを乱す行動を、しばしばする。腕力の強い男児に多くみられ、また、わがままな子にもみられる。三、四才児には、この型の子が時々みられるが、五才児になると、自制することができ、遊びをみなで楽しむことができる。

d、遊びをみて楽しむ子ども

遊びへの参加態度は消極的で、人前で行動することを度々拒否するが、その遊びには興味をしめし、友達をしているのを見て楽しむ。無口な女児や年少児の中にみられ、また友達となれない入園時などにも多くみられる。

遊びに興味をしめさない子ども

a、無関心な子ども

遊びの場に参加はしているが、興味がうすく、ただすわっているだけの子どもである。しかし別に遊びを邪魔する態度はとらない。

b、遊びに参加しない子ども

興味を失ない、その場を立ってしまふ子どもで、年少児の場合などには遊びにあきた時などにしばしばみられる。

c、遊びを破壊する子ども

自分が遊びに参加しないだけでなく、みんなの遊びを無意味に邪魔し、破壊する子どもである。

このような興味をしめさない子どもは、多くそのルールが理解されない場合であり、それが消極的、内向的なおとなしい子は無関心となり、落付きのない子どもや、その場になれない場合は不参加の型をとり、また、独善的、乱暴、わがままな子どもは、多く遊びを破壊する結果となる。そして、これらは年少児になるほどよくみられる型である。

以上、遊びの観察から得られた子どもの姿をもとに、年令に応じてよろこばれる創作あそび、並びにその指導について、次に記したいと思う。

※「集団あそびについての一考察」日本保育学会第十二回大会発表

(名古屋市立保育短期大学)